

## 質問9 協会が考える目指すべき作業療法士の姿について

(該当箇所: p.13、2019年度事業報告)

議案書の報告事項では、「会員を増やすことが目的というよりは～」という文面がございますが、総会終了後のWEB配信においては、香山事務局長から会員を増やすことが目的であると説明されたと思います。会員を増やすことは、より作業療法が発展するための一つの方法論に過ぎないと思いますが、協会が考える目指すべき作業療法士の姿とはどのようなものでしょうか？

### 回答

まず、医療専門職は常に最新の知識と技術をもって国民の健康と幸福に寄与することが求められています。これは会員であるか否かを問わず、すべての作業療法士に要請されていることであり、それに応えていくことが国家資格を有する作業療法士としての責務であるはずで、協会はそれを担保するために、様々な研修会、講習会、学会、研究活動等を企画し、会員に提供しています。また、各種マニュアルや学術誌『作業療法』等の発刊、eラーニングなど様々なメディアを通して自己研鑽の材料を提供しています。今後もこのような環境整備はさらに充実させてまいりますので、会員諸氏には、常に自己研鑽に努めていただくようお願いできるのですが、非会員にはこの願いが届きません。作業療法士全体の質の向上を図るためにはこのような自己研鑽の場をより多くの作業療法士に提供しなければなりませんし、そのためにはまず会員を増やすことが必要です。

その上で、協会が考える目指すべき作業療法士の姿を端的に述べますと、新定義でお示した作業療法を提供することだと考えています。それぞれの職場で「作業」の専門家として、対象者の「活動」と「参加」を促進する役割と機能を担い、実践を通して、その専門性を誰もが認める、そんな姿を目指したいと思います。そのためには、すべての作業療法士にそれらについての圧倒的な知識と技術および実践力が求められます。